



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



ポカリスエットと点滴の成分は同じ？

大塚製薬のポカリスエットは、飲む点滴をコンセプト(発汗により失われた水分、イオンをスムーズに補給する健康飲料)として開発されたため、点滴と成分がほぼ一緒となっており、飲みやすいように多少の味付けをしているものの、点滴と一緒に成分で製造されている。

飲む点滴があるのなら、わざわざ点滴の必要性はないと思われるかもしれないが、点滴には体内に直接栄養と水分を補給するため吸収が早く、即効性などのメリットがある。

なお、ゲータレードやアクエリアスなどのスポーツドリンクは、スポーツ用に開発されているため、ポカリスエットとは用途は異なる。

春一番(の語源)

「春一番」というと、キャンディーズのヒット曲から明るい前向きなイメージを受けるが、実は「春一番」は悲惨な事故に由来する言葉である。

160年前の安政6年(1859)2月、長崎県壱岐郡郷ノ浦町(現在の壱岐市)の漁師が出漁中、強い風にあおられ船が転覆、53人の犠牲者が出た。これ以降、漁師たちはこの強い南風を「春一



長期投資仲間通信「インベストライフ」

番」と呼ぶようになった。この海難事故から 128 年後、昭和 62 年に郷ノ浦港近くの元居公園内に「春一番の塔」が建立されている。

民俗学者の宮本常一は研究のため郷ノ浦町を訪れ、この「春一番」という言葉を、昭和 34 年に壱岐で用いられている言葉として『俳句歳時記』で紹介した。これをきっかけに、「春一番」は気象用語として、また一般にも広まったといわれている。



呉服(の由来)

ふだん何気なく使っている「呉服」という言葉は、中国が三国時代(魏、呉、蜀)のときの呉の織物や着物の縫製方法が日本に伝わったことに由来している。元々は絹製品を呉服、綿製品を太物と称し、昔は扱う店も別であった。

呉服は、和服そのものを指す言葉としての「和服」「着物」に比べ使用頻度は低いが、和服を扱う店は「呉服屋」と呼ばれることが多い。

光文事件(新元号誤報事件)

大正 15 年(1926)12 月 25 日午前 1 時 25 分大正天皇が崩御された(47 歳)。この時、東京日日新聞(現在の毎日新聞)が崩御直後に発行した「聖上崩御」号外で「元号は『光文』 樞密院に御諮詢」、及び同日に発行した朝刊最終版において「元号制定『光文』と決定」の見出しで、新元号として「光文」「大治」「弘文」等の諸案から「光文」が選定されたと報道した。



しかし、実際に宮内省が同日午前 11 時頃に発表した新元号は「昭和」となったため誤報となった。「昭和」に決定した時の最終案は「昭和」のほかは「元化」「同和」の 2 案であり、「光文」は宮内省案に含まれておらず、内閣勘進案 5 種の中の 1 種にあってだけである。

・写真は東京日日新聞(大正 15 年 12 月 25 日発行)の号外。元号は「光文」とある。



袖振り合うも「多生の縁」or「多少の縁」

見知らぬ人に親切にして、感謝された時などに言うことわざ「袖振り合うもタショウの縁」の「タショウ」は「多生」と書く。「多生」は、「この世に何度も生まれ出る」という意味の仏教用語。

「袖振り合うも多生の縁」というと「道で人とすれ違うようなことでも、それは何度も繰り返された過去の世の縁によるもので、ただの偶然ではなく、縁によって定められた必然である」という意味。

「道で人とすれ違うのも、それは多かれ少なかれ縁であるから、その出会いを大事にしなければいけない」という意味で「袖振り合うも多少の縁」と言うのは誤用である。